

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495500157	事業の開始年月日	平成23年2月1日
		指定年月日	平成23年2月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家川崎野川南台		
所在地	(216-0042) 川崎市宮前区南野川 2 - 3 8 - 5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年9月7日	評価結果 市町村受理日	令和7年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用様が心身共に健康に過ごして頂く事を目指してケアを実践しています。ご利用様のこれまでの背景、個性、生活を大切にしています。ご家族様と積極的に連携してご利用様がその方らしい生活を送って頂けるよう努めています。またそれらを活かした個別のレクリエーションを提供したり、家事や日課等の役割を持つて頂いています。一方で他者との関わりの機会も大事にしています。ご利用者様同士、職員、ご家族様、地域の方々と季節毎の催し等を通して楽しみながら触れ合っ

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル 3 階		
訪問調査日	令和6年10月25日	評価機関 評価決定日	令和6年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園都市線「鷺沼」駅、またはJR南部線「武蔵中原」駅よりバスにて最寄りバス停「山崎」で下車、徒歩10分のところにあります。コンビニエンスストアや公園を抜け、住宅地の高台の一角にある、2ユニットのグループホームです。玄関前からの富士山の眺望は利用者、家族の自慢の一つとなっています。

＜優れている点＞

事業所では、利用者が「今何がしたいか、何が欲しいか、来週は、来月は」などの意見や要望を聞き取り、行事やイベントの企画に反映しています。個別の思いや意向は自立活動として支援しています。廊下やリビングの壁には利用者と職員が共同で制作したハロウィンの飾り、熟れた実のついた柿の木、紅葉の貼り絵などの作品を掲示し、季節の移ろいを感じられるようにしています。経験豊富な職員を擁し、充実した看取り研修のもとで終末期の支援に努めています。法人が作成した年間研修予定表に添って、職員の資格取得の支援に積極的に取り組んでいます。既に多くの資格取得者がいて、さらに次の資格取得の目標を目指す職員など、サービスの質の向上に取り組んでいます。事業所では、NPO法人を中心に結成された介護予防を推進する地域ネットワーク会議「野川セブン」の会議に参加・交流しています。会議では医療機関や福祉施設、行政機関、ボランティア団体、ケアマネジャーなどが参加し、地域の問題の解決を目指しています。

＜工夫点＞

職員は利用者一人ひとりにかかわる時間を出来るだけ多くするために、生活、医療、介護記録や服薬管理をIT化したり、洗濯を外部業者に委託するなどにより捻出した時間を利用者の支援に充てています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみんなの家川崎野川南台
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		✓	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		✓	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	温もりのある我が家を理念に職員一同温かい気持ちでご利用様と接する事が出来るよう努めている。	理念は「温もりのある我が家」で、開設時に全職員と相談して作り上げたものです。理念は玄関や各フロアに掲げ、職員は共有しています。理念の実践に当たっては、それぞれの家族と連携し、在宅当時の「穏やかな温もりのある家庭」の延長を目指して支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの緩和し、幼稚園のイベントに訪問したりと交流をしている。	自治会に加入し、回覧で地域の情報を得ています。保育園に移動動物園が来訪し、利用者は山羊やモルモット、アヒルなどの小動物や園児とふれあい交流しています。ダンスや日舞、玉すだれ、楽器演奏などのボランティアの再開を検討しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会と自治体に参加し生かしています			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回行い、意見を聞きサービス向上に生かしています。	宮前区の「野川・梶ヶ谷地区」グループホーム・小規模多機能型サービス合同運営推進会議を年3回、当該事業所の運営推進会議を年3回開催しています。合同会議では他の事業所や、行政、地域包括支援センターとの情報交換が主となっています。	更に地域の代表や民生委員、家族、利用者、知見者、地域包括支援センターなどのメンバーの参加を求め、意見交換や地域交流の拡大などが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所が抱える課題について主に地域包括支援センターに相談、協力をお願いしている。	行政からは、困難事例の相談があります。地域包括支援センターとは空き情報などの情報交換をしています。NPO法人が主催する、地域ネットワーク会議「野川セブン」に参加し、交流をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	危険箇所、玄関は施錠しているがそれ以外はご利用者様の意思で自由な活動が行えるよう留意している。 2ヶ月1度会議を行っている。	身体拘束適正化研修を年2回、委員会を年4回開催し予防に努めています。研修参加者の報告書は職員に回覧し共有しています。身体拘束の理解度テストでセルフチェックを行い自己啓発をしています。不適切な言葉や心身拘束の恐れ的事例があれば管理者が注意し、ユニット会議で取り上げて防止に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士の周知と2か月1度の会議を行っています。	高齢者虐待防止研修を年2回、委員会を年3回実施し虐待防止の啓蒙に努めています。自己チェックシートで自己点検の励行をしています。虐待防止の指針は朝礼時に見えるよう事務所の正面に掲示し、職員の意識の徹底を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の指導講習会や研修で得た知識を共有し各ご利用者様、ご家族様の状況に合わせたご案内ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	基本的に事前に重要事項説明書、契約書を送付しており、予め目を通して頂いた上でご説明を行い、特に疑問、ご質問があった場合は重点的に説明ができるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や電話で要望聞き反映している	家族との面会は自由です。面会の際に要望や意見を聞いています。毎月発行する「一言通信」に利用者の活動写真を印刷した「わが家たより」を添えて家族に送り、コミュニケーションを図っています。利用者の笑顔の写真を見た家族から感謝の声があります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な意見交換や面談を聞く機会を設けている。	職員の運営に関する意見や要望は、ユニット会議や全体会議で聞いています。年2回個人面談の場も作っています。管理者は職員が自由に意見が言える雰囲気を作り、職員が考えた行事やイベントのアイデア、企画を運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員はそれぞれ担当のご利用者様を受け持ち、ご家族様への連絡やケアの方向性に関して担当者として意見、提案を行っている。また行事担当、装飾担当、発注担当など業務を割り当てており、それぞれの能力、個性を活かした働き方ができるよう配慮している。	職員の仕事の成果や努力を正に評価する仕組みがあります。職員の役割分担は明確になっています。管理者は、職員の仕事の悩みやストレス解消のために声かけし、健康管理に繋がっています。仕事から離れてくつろぐ休憩室があります。有給休暇は希望通りに取得しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量を把握し研修や指導をお子k鳴っている。	年間の研修計画があり実施しています。職員の資格取得支援制度があり、パートを含む多くの職員が取得し、サービスの向上に繋がっています。経験豊富なベテラン職員が新人職員にOJT（現場実習）を通して指導、育成に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や資格等でサービス向上を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を聞き解決方法のアドバイスや方向性を決め、解決に導いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	要望を聞き、ご利用者様が出来るかどうか判断し、配慮しながら努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に説明もしつつ、段階を踏んでる段階でも説明し、対応をしています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様に寄り添って関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の立場に立ちながら家族と絆を築けるようコミュニケーションを取っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある物を置いたり、関係を切れないよう定期的に面会や電話で途切れない様にしています。	職員は利用者の馴染みの人や場の関係継続の重要性を理解しています。家族から聞いた在宅当時の生活習慣、趣味や嗜好を把握し生活に取り入れるように支援しています。買い物同行、読書、編み物、絵を描くなどの活動ができる環境を整えています。ふりかけ、梅漬けなどの嗜好品は家族が協力して持ち込み、支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	理念に沿った生活を送って頂けるようご利用者様同士の関係を大事にしている。時には職員が橋渡しを行い、円滑なコミュニケーションが取れるよう留意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	我々が退居された方の背景の一つになった事を自覚し、その方の今後の生活を親身になって考え、必要に応じて相談、支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安心して生活を送られているか、何が楽しみとなっていて何か問題を抱えていないか等、日頃の様子を観察し、記録に残し情報を共有する事で多角的な支援を行えるように努めている。	アセスメントや日常生活の会話、問いかけで思いや暮らし方の希望を把握しています。意思表示の困難な利用者は表情や態度、問いかけの笑顔などから把握しています。生活歴からや家族の協力を得ることもあります。新たに得た情報は申し送りノートに記録し職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みのあるものを置いたり、本人のペースで過ごせるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	普段から観察をし把握し何かあれば病院にとの連携をとっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	自らの意向をしっかりと伝えられない場合も日頃の生活の様子からその方の気持ちを汲み取り、ご家族様、職員同士相談し多角的な意見を取り入れる事が出来るよう努めている。	介護計画は年1回、モニタリングは半年ごとに見直しています。担当者会議では利用者の状態把握と課題の達成状況の検討を行っています。利用者の手伝いたい、趣味作業をしたいという希望は自立目標として本人と家族の意向を反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の観察し本人に合ったケアをし見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様に合わせたニーズを聞き、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事への参加、また事業所の行事にご家族様、地域の方々をお招きしご利用者様が楽しく、より広い社会の一員である事を認識できる機会を提供している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師と職員と利用者の話し合い。	提携内科医と歯科医の診察は月2回です。毎週訪問看護師と口腔ケアの歯科衛生士が来訪して利用者の健康管理を担っています。緊急時は24時間オンコール体制で対応しています。眼科や皮膚科の専門医受診は原則家族対応ですが、都合が悪い場合は職員が同行しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	変化があれば口頭で情報を相談したりケアのアドバイスを聞き対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携もするが、家族とも連携を取り情報や相談するようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	病院と家族と職員で事前に話し合い方向性のすり合わせを行っています。	契約時に「重度化対応及び看取りケアに関する指針」を説明し、同意を得ています。重度化が進んだ場合は医師から家族に説明があり、希望すれば看取り介護計画書を作成し、医師・看護師・職員が連携して支援しています。看取り研修は毎年行い、職員の心のケアにも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対処法は普段から徹底しており、順序を周知しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	立地的に水害はないが、地震等の時の時には職員や地域の方と連携をとれる様にしています。	年2回、夜間想定避難訓練を含む火災・消火訓練、避難訓練を行っています。今年度は11月に実施する計画です。災害用の飲料水、おかゆや缶詰などの食料備蓄品は3日分を備えています。職員や家族との緊急連絡体制のファイルを備えています。	災害時の避難には、利用者の見守りに近隣住民の協力が大切です。地域の防災訓練へ積極的に参加し、事業所の防災訓練の際は、加入自治会を巻き込んだ協力関係の構築が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人個人の性格や人格把握し、ご利用者様に合わせた言葉かけをしています。	人権・個人情報保護に関するマニュアルで研修を行い理解しています。人格を尊重したケアや言葉かけの具体的な接遇方法を動画で学び、レポートを提出しています。入浴介助や更衣、排泄介助の対応時の配慮、個々の好みや習慣に沿ったケアを実践するように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の出来る範囲の中で希望や自己決定を促しています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てではないが過ごしやすように自分のペースで出来るよう支援をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみが出来る方はご本人に選んでいただき、出来ない方は職員が本人に聞きながら支援を行っています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでいただくために定期的にイベント食を行ったりしています。	食材は外部に委託し、湯煎で提供しています。敬老の日、クリスマス、おせち料理、誕生日会のケーキなどの行事食、イベントではノンアルコールビールもあり、笑顔で楽しめるように支援しています。メニューの希望から、握り寿司、釜めし、天ぷら弁当、ピザなどの出前を注文することもあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	塩分や水分制限がある方いるので状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	衛生士とも連携をとり口腔状態に合わせてケアをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自身で行ける方は行っただき、出来ない方は食後や食前等定期的に誘導をしています。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子や表情を見てトイレ誘導の声かけをしています。パッドやオムツを自分で交換できるように支援しています。尿意のない人へ定時声かけを行っています。女性専用トイレがあり、臭いのない清潔な環境管理に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動が出来ない方などはお薬で調整したり把握しています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間が決まっており、楽しんでもいただくために歌をうたったりしています。	入浴は週2回午後が基本です。1階にはリフト付き風呂があります。脱衣所や浴室は暖房を入れヒートショックの防止をしています。入浴拒否の人には、時間を変えたり、言葉かけを行いながら気持ちが変わるまで柔軟に対応し、入浴に繋げています。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じられるようにもしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人個人に合わせて寝れるような習慣を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院や薬剤師に指導してもらいながら把握し症状の確認や様子を見ています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣向にあった生活の支援をしている。季節毎のイベントや誕生会などを行い、楽しく過ごして頂いている。また役割を持って家事の手伝い等もできるだけ行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気等で希望に添えない場合もあるが、ご家族と一緒に掛かっているよう協力していただいています。	身体状態に合わせ、職員と一緒に土手のアジサイ見物、野川南公園の桜見物に出かけています。建物横での日光浴、居間の大きな窓から差し込む陽ざしを楽しむ人もいます。墓参りやレストランでの食事の希望者には家族との仲介を行い、外出準備の支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に金銭管理はホームにて行っている。ご利用者様にはその点をしっかりとご説明し理解して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	定期的に状況の手紙や電話をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾りや話題をしたり居心地ような空間を作っています。	居間の大きな窓からの採光が良く、換気と温度・湿度が快適に設定され、動きやすい動線を確認しています。利用者が手作りした木や果物の作品を壁に飾り季節を感じられるようにしています。気の合う利用者がテーブルを囲み趣味の手作業をしながら笑顔で会話をしています。窓側にソファを置き居場所の工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有テーブル以外にもソファがあったりするのでそこで過ごしてもらっています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものを持ち込んでもらったりと居心地の良い環境を作っています	使い慣れた物やテレビ、仏壇を持ち込み、ぬり絵や写真を壁に飾り、花の鉢植えを置くなど居心地よく暮らせる工夫をしています。家具類は利用者と相談して配置しています。洗面台があり気兼ねなく整容ができます。シーツ交換は週1回、汚れた場合は適宜交換しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	事前に転倒リスクを減らすために歩行が不安定なら歩行器を使うなど工夫をしています。		

事業所名	グループホームみんなの家川崎野川南台
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		✓	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		✓	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	温もりのある我が家を理念に職員一同温かい気持ちでご利用様と接する事が出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの緩和し、幼稚園のイベントに訪問したりと交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会と自治体に参加し生かしています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回行い、意見を聞きサービス向上に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所が抱える課題について主に地域包括支援センターに相談、協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	危険箇所、玄関は施錠しているがそれ以外はご利用者様の意思で自由な活動が行えるよう留意している。 2ヶ月1度会議を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士の周知と2か月1度の会議を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の指導講習会や研修で得た知識を共有し各ご利用者様、ご家族様の状況に合わせたご案内ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	基本的に事前に重要事項説明書、契約書を送付しており、予め目を通して頂いた上でご説明を行い、特に疑問、ご質問があった場合は重点的に説明ができるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や電話で要望聞き反映している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な意見交換や面談を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員はそれぞれ担当のご利用者様を受け持ち、ご家族様への連絡やケアの方向性に関して担当者として意見、提案を行っている。また行事担当、装飾担当、発注担当など業務を割り当てており、それぞれの能力、個性を活かした働き方ができるよう配慮している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の力量を把握し研修や指導をお子k鳴っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や資格等でサービス向上を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話を聞き解決方法のアドバイスや方向性を決め、解決に導いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	要望を聞き、ご利用者様が出来るかどうか判断し、配慮しながら努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に説明もしつつ、段階を踏んでる段階でも説明し、対応をしています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様に寄り添って関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の立場に立ちながら家族と絆を築けるようコミュニケーションを取っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある物を置いたり、関係を切れないよう定期的に面会や電話で途切れない様になっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	理念に沿った生活を送って頂けるようご利用者様同士の関係を大事にしている。時には職員が橋渡しを行い、円滑なコミュニケーションが取れるよう留意している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	我々が退居された方の背景の一つになった事を自覚し、その方の今後の生活を親身になって考え、必要に応じて相談、支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安心して生活を送られているか、何が楽しみとなっていて何か問題を抱えていないか等、日頃の様子を観察し、記録に残し情報を共有する事で多角的な支援を行えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みのあるものを置いたり、本人のペースで過ごせるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	普段から観察をし把握し何かあれば病院にとの連携をとっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	自らの意向をしっかりと伝えられない場合も日頃の生活の様子からその方の気持ちを汲み取り、ご家族様、職員同士相談し多角的な意見を取り入れる事が出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の観察し本人に合ったケアをし見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様に合わせたニーズを聞き、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事への参加、また事業所の行事にご家族様、地域の方々をお招きしご利用者様が楽しく、より広い社会の一員である事を認識できる機会を提供している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師と職員と利用者の話し合い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	変化があれば口頭で情報を相談したりケアのアドバイスを聞き対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携もするが、家族とも連携を取り情報や相談するようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	病院と家族と職員で事前に話し合い方向性のすり合わせを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対処法は普段から徹底しており、順序を周知しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	立地的に水害はないが、地震等の時の時には職員や地域の方と連携をとれる様にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人個人の性格や人格把握し、ご利用者様に合わせた言葉かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の出来る範囲の中で希望や自己決定を促しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てではないが過ごしやすいように自分のペースで出来るよう支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみが出来る方はご本人に選んでいただき、出来ない方は職員が本人に聞きながら支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでいただくために定期的にイベント食を行ったりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	塩分や水分制限がある方いるので状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	衛生士とも連携をとり口腔状態に合わせてケアをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自身で行ける方は行っただき、出来ない方は食後や食前等定期的に誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動が出来ない方などはお薬で調整したり把握しています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間が決まっており、楽しんでいただくために歌をうたったりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人個人に合わせて寝れるような習慣を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院や薬剤師に指導してもらいながら把握し症状の確認や様子を見ています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣向にあった生活の支援をしている。季節毎のイベントや誕生会などを行い、楽しく過ごして頂いている。また役割を持って家事の手伝い等もできるだけ行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気等で希望に添えない場合もあるが、ご家族と一緒に出掛けていただけるよう協力していただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に金銭管理はホームにて行っている。ご利用者様にはその点をしっかりとご説明し理解して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	定期的に状況の手紙や電話をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾りや話題をしたり居心地ような空間を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有テーブル以外にもソファがあったりするのでそこで過ごしてもらっています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものを持ち込んでもらったりと居心地の良い環境を作っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	事前に転倒リスクを減らすために歩行が不安定なら歩行器を使うなど工夫をしています。		

2024年度

事業所名 GH川崎野川南台
作成日：2025年1月2日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み	宮前区の野川・梶ヶ谷地区の交流を行う。	年3回の合同運営推進会議に参加し、地域の代表や民生委員、地域包括支援センターとの意見交換・交流を行う。	2ヶ月
2	35	災害対策の取り組み	近隣住民との防災訓練	回覧板・ポスティング等を活用し、周知させる。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月